

## 台本オマケトラック:たまには違う味わい方を

---

「どうかしましたか？ 黙り込んでしまって」

「……ああ、そうですね。実は、僕も初めてなんです」

「ラブホに入るの」

「わかりますよ。キヨロキヨロしてしまうんでしょう？ 普段行かない場所だから」

「荷物、ソファーの上に置きますよ？」

「あはは、今の貴女、小動物みたいです。動きがね」

「……可愛い」

(ベッドに押し倒す音。ギシギシ、ドスンという音を、ハッキリとした感じで)

「……何度も話しても、何度も触っても、何度もキスしても」

「駄目なんです。貴女が目の前にいると、自分を抑えられなくなってしまう」

「……不思議ですよね。付き合っている筈なのに」

「貴女のことを手放したくない」

「今この瞬間を、切り取ってしまいたい」

「……誰にも見せない表情で、埋め尽くしてしまいたい」

「ちゅっ……」

「貴女のその唇から、他の男の名前が出るだけで、胸が苦しくなる」

「……だからこうして、【貴女は僕のモノ】だと、その身体と心に刻みこむんです」

「僕から、離れられなくなってしまえば良い」

「愛していますよ……」

(ベッドの軋む音)

(布の擦れる音)

「んん……ちゅっ……」

「……急ぎ過ぎましたか？」

「ちゅっ……」

「ゴメンね。待ちきれなくて」

「すぐにでも、したい」

(服を脱がせる音)

「……可愛い乳首」

「ホラ、指でつまんだら……」

「すぐに硬くなるもんね」

「コリコリしそうね」

「……気持ち良いんだ」

「もっと、しようか」

「……ちゅっ……ちゅっ……」

「ぴちゃ……ぴちゃ……ちゅう……」

「ふふ……美味しい……」

「下は……どうかな……？」

(ピチャピチャ音)

「……うん……もう濡れてる。……こんなに」

「……あ」

「少し、良い？」

(ベッドの軋む音)

(ガサゴソという物を探す音)

(ベッドの軋む音)

「……目、閉じて？」

(布の擦れる音)

「目、開けて良いよ」

「あはは」

「……見えないでしょ？」

「アイマスク」

「その方が、ずっと感じるから」

(モーター音)

「イかせてあげる」

「……オモチャ、使うって約束しましたもんね」

「約束は、守りますよ」

「……貴女の反応も見たくて」

「どうですか？　ローターは」

「振動がクリに響いて、気持ち良いでしょ？」

「……ふふつ」

「シーツ、掴むほど気持ち良い？」

「はあはあ言ってる」

「堪らないね？」

「どうするのが良いの？」

「押し付ける…？」

「それとも、動かす？」

「もっと、強い方が良いかな？」

「……身をよじっても、逃れられないよ」

「ね？　だから、イっちゃいなよ」

「ああ、イっちゃったね」

(スイッチを切る)

「気持ち良かった？」

「……素直なのは、良いことだよ？」

「じゃあ、次のね」

「……え？　一つじゃないよ？」

「こっちの方が、刺激が強いかな？」

「……凄いでしょ？　さっきより、強くて、当たる部分も広い」

「だから、ちょっと押し付けてしまえば……」

「強制的に、イっちゃうね？」

「もっと声、聞かせて……？」

「んっ……ちゅっ……ぴちゃぴちゃ……ちゅう……ん……」

「んん……ん……ちゅ……んう……」

「もっといじめたい……」

「好きだから……」

「貴のこと……」

「可愛い……」

「愛してる……」

(ベッドの軋む音)

「んっ……ちゅっ……ちゅっ……」

「……ふふつ」

「もう、イっちゃったの？」

「中はきっと、トロトロだね」

「アイマスクは、外してあげる」

「僕の顔、見て？」

「耳まで真っ赤」

「可愛いなあ……」

「……入れようか……」

「……っ」

「うん……凄く濡れてる……」

「イッたばっかりだから、キツイね……」

「たまらない……」

「動くよ」

(グチュグチュ音)

(ベッドの軋む音)

「……よく見える」

「繋がっているところが」

「ヌルヌルして、ホラ」

「中がめくれる」

「……いやらしい」

「恥ずかしがる姿も、可愛いですよ？」

「そんな顔するから、もっと意地悪したくなるんだよ？」

「……もしかして、わざとかな？」

「首、振るの？」

「違わない気も、するんですけどね」

(ベッドの軋む音)

(シーツの擦れる音)

「ずっと、入れてみたい」

「繋がっていると、幸せですから」

「……良かった。今日も、貴女と一緒に過ごすことが出来て」

「離れたくないんです」

「……貴女は僕のモノだ」

「今も、この先も、ずっと……」

「……ね？」

「ええ、ずっと、ですよ」

「……もう少し、味わわせてください」

「貴女の中を……」

「そうしたら……」

「中に……出しますからね……」

「……っ……ん……」

「はっ……」

「う……ん……」

「っ……」

「くっ……ふっ……」

「んん……」

「はあ……っ……」

「う……あ……」

「はあ……はあ……」

「んっ……」

「……うう……っ……！」

「……はあ……」

(布団に倒れこむ音)

「……愛していますよ？」

「……いいえ。僕の方が、より愛しています」

「ふう……意地っ張りですね」

「ちゅっ……んんっ……」

「言い張るなら、試してみましょうか」

「どれだけ僕が、貴女のことを愛しているか」

「……ああでも、その表情だと、確かに僕のことを愛してくれていますね」

「安心しきった顔。そして僕に、身体を預けてくれている」

「それに」

「僕が触ると……」

「ふふっ……。ホラ、そんなに切ない声を出して」

「目がとろんってしてる」

「まだ、足りない？」

「欲しいなら、ちゃんと言って？ ……何が欲しいか」

「ちゅっ……ちゅっ……」

「何度でも気持ち良くしますから、もっと僕を必要としてくださいね？」

「……勿論……」

「……セックスだけじゃなくて、精神的にも」

「依存してしまうくらいに、愛してあげる」